

他者操作とダークトライアド、及びメタ認知に関する研究

玉腰 琴音

指導教員 日道 俊之

研究背景

他者操作は種類により4つに分けられ、体系化されている。Dark Triadとはマキャベリアニズムとサイコパシーがすべての操作と、自己愛が自己優越的行動操作と正の相関関係を示すことが明らかになっており、その背景要因として孤独感がある。Dark Triadが高い人の孤独感には認知の歪みに関係し、その認知の歪みにはメタ認知が関係している。しかし、メタ認知自体が他者操作にどのように影響するのかは明らかになっていない。

研究目的

他者操作とDark Triad、及びメタ認知の関係を検討することが本研究の目的であった。また、仮説を「Dark Triadが高い人の中でもメタ認知が高い人は、同じくDark Triadが高いがメタ認知が低い人に比して、他者操作をする傾向が低くなる。」とした。

調査・分析方法

オンライン調査を実施し、メタ認知尺度、Dark Triad尺度、他者操作方略尺度の3つの心理尺度を測った。各尺度の因子モデルの検討を行った後、相関分析を行った。さらに重回帰分析を行い、メタ認知とDark Triadの交互作用が確認できたものに単純傾斜分析を行った。

分析結果

確証的因子分析では、メタ認知尺度は1因子モデル、Dark Triad尺度は3因子相関モデル、他者操作尺度は4因子相関モデルがそれぞれ採用された。重回帰分析では、メタ認知とマキャベリアニズムの交互作用が、自己卑下的感情操作および自己優越的行動操作に対して有意であることが示された。単純傾斜分析では、メタ認知の高低にかかわらず、マキャベリアニズムの効果は正に有意であることが示された。

考察・結論

メタ認知の高低にかかわらずマキャベリアニズムの効果は正に有意であったが、その影響はメタ認知低群で強く、操作行動下における操作者のメタ認知は操作者のマキャベリアニズムに影響を及ぼすことが示唆された。結果は、メタ認知による操作者の不安状況の抑制や、被操作者との関係性の考慮などによって説明されると考えられるが、状況要因を考慮していないなどの限界点がある。本研究は他者操作様式の違いからDark Triadとメタ認知の関係を整理した点に意義がある。